

令和4年度 こども園（保育園）関係者評価  
施設評価シート

子育てセンターみゆうのおか

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和5年 2月 21日（火） 9:30 ~ 11:00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

ひとみかがやく子～自分が好き 友だちが好き あそびが好き～  
自然の中で こころが動く様々な体験を通して 一人ひとりが 生き生きと遊び 人との関わりの中で お互いの良さを認め合う

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した  
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

不思議いっぱい 発見いっぱい みゆうの自然を楽しもう  
職員一人ひとりが身近な自然への知識を深め（自然物の名前や遊び方など）会議やカンファレンス・園内研修などで情報共有します。また、自然に関する冊子を作成し、四季折々の自然に触れるコーナー遊びをします。子どもの意見を取り入れて、畑で収穫した野菜を調理し提供します。食に関する興味や関心が持てるよう、その日に提供する料理や食材の名前をかき出し、ランチルームに掲示します。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
<b>I. 目標の理解</b> 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	年度初めに職員全体で理解を図り、意識して取り組んでいる。重点目標をもとに、指導計画を作成し、それに沿った教育・保育活動を行っている。	4	職員が目標を理解しているかどうかを判断するのは難しいと感じるが、園の説明や取り組みから、職員全体にグランドデザインや重点目標が周知されており、職員一人ひとりが教育・保育において意識を持って取り組んでいると思う。園の評価通り4とする。
<b>II. 教育・保育の計画性と内容</b> 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	子どもの発達や5領域に沿った指導計画（年間計画・月案・週案・日案）を作成・実践をし、振り返りを行っている。園活動の重点目標である“自然”についても計画に取り入れ、年間を通して楽しむことが出来た。活動において子どもの発想やアイデアを取り入れているが、保育者から提供する活動の割合が多かったため、今後の課題として考えている。	4	年間通して、自然と触れ合うことを大切にしたい計画、活動内容であった。特に春夏秋冬を感じる自然物やお散歩マップ等の環境づくりの工夫や、運動会の種目にも取り入れる等、子どもや保護者とも共有できていた。子どもたちが活動や遊びの中で自然と関わり、親しむことできていたことを評価し、最終評価を4とした。
<b>III. 子どもにとっては</b> 1. そのらしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	4	一人ひとりの個性を認め、自然の中でゆったりとした生活を送ることが出来ている。園内では、年齢の枠を越え、様々な子どもや職員と関わり合い生活しているが、コロナ禍もあり地域との関わりについては課題が残る。	4	コロナ禍で制限がある中でも、行事や活動内容を工夫しながら実践していた。その中で子どもたちは、自然豊かな良い環境の中で様々な体験ができ、おはなしの会の方や移動環境教室での地域の方との関わりは楽しい経験であったと感じる。来年度はコロナによる制限も変わるため、色々な活動や行事ができることを、今後、期待している。

<p><b>IV. ファミリーにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に相談できる</li> <li>2. いつでも保育に参加できる</li> <li>3. 必要な情報が得られる</li> <li>4. 保育を通して地域に親しむ</li> </ol>	3	<p>コロナ禍で園内への立ち入りや行事への参加人数等、制限される部分があった。また、保護者とのコミュニケーションが取りにくい状況であったが、ブログや掲示、個人面談等での情報発信に努めた。しかし、保護者アンケートの結果からは、受け止め方の相違が見られた。</p>	4	<p>保護者アンケート結果から、職員とのコミュニケーションが取りにくいと感じている保護者が少人数いたが、おおよその保護者は、時間がない中でも職員とのコミュニケーションは取りやすく、気軽に相談しやすいと感じていると読み取った。コロナ禍でできていなかった祖父母の行事等の参加を、今後検討していけるとよい。</p>
<p><b>V. 地域にとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰でも親しく訪ねられる</li> <li>2. 園の内容がよくわかる</li> <li>3. 緊急の時頼りになる</li> <li>4. 子育てに夢がもてるように</li> </ol>	3	<p>親子ひろばや園の事業について、HPやブログ、回覧板等で地域に向けて発信し、利用者が少しずつ増えてきた。来園した親子が気軽に遊んだり、スタッフと話したり出来る環境を整えた。子育て相談に関しても、他機関と連携しながら丁寧な対応をしている。ただし、コロナの状況によっては、園への立ち入りをご遠慮していただくこともあった。</p>	3	<p>親子ひろばの利用者の数を増やしていくためにも、近隣への発信のみならず、チラシを公民館やお店に掲示させてもらう等、発信方法の工夫が必要である。また、園だけでなく保護者に相談し意見を聞いたり、自治会の協力を得たりして考えていくと良い。今後の地域発信に期待をしている。</p>
<p><b>VI. スタッフにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個性が生かされる</li> <li>2. 快適な職場づくり</li> <li>3. 生活や遊びの文化が伝えられる</li> <li>4. 視野を広げて自ら学ぶ</li> </ol>	4	<p>それぞれの得意分野を行事や教育・保育に活かしている。様々な研修に参加し、職員間で共有することで、専門性や自己理解を高めている。また、相手への思いやりの気持ちを持ち互いに尊重し合うと共に、意見を平等に言い合える雰囲気が出てきた。</p>	4	<p>一年を通しての自然への取り組みは、職員一人ひとりが楽しみながら学び、日々の保育や活動に繋がるような取り組みであった。また、ドキュメンテーションの学びは考え方が広がり、チームワークとしても大事な学びであった。自然への取り組みは来年度以降も更新しながら更に活用していけると良い。</p>